

2025年3月26日 木村雅英

質問 1 - 3 放射性物質は拡散してはいけない～イチエフ事故後の放射性物質の総量は？

(1) イチエフの汚染状況

事故後 14 年を迎えた福島第一原発とその周辺の放射性物質の状況を確認させてください。最新の東京新聞こちら特報部の図は次です。

図では、次の様に記載されています。

1 号機:汚染水 910 トン、核燃料 392 体(プール内)

2 号機:汚染水 1120 トン、核燃料 615 体

3 号機:汚染水 1260 トン、核燃料は取り出し完了

4 号機:汚染水 10 トン、核燃料は取り出し完了

他の建屋内の汚染水 1 万 1780 トン

処理した水 セシウムとストロンチウムを除去 1 万 1352 トン

主にトリチウムが残る 128 万 4699 トン

海洋放出総量 7 万 8285 トン

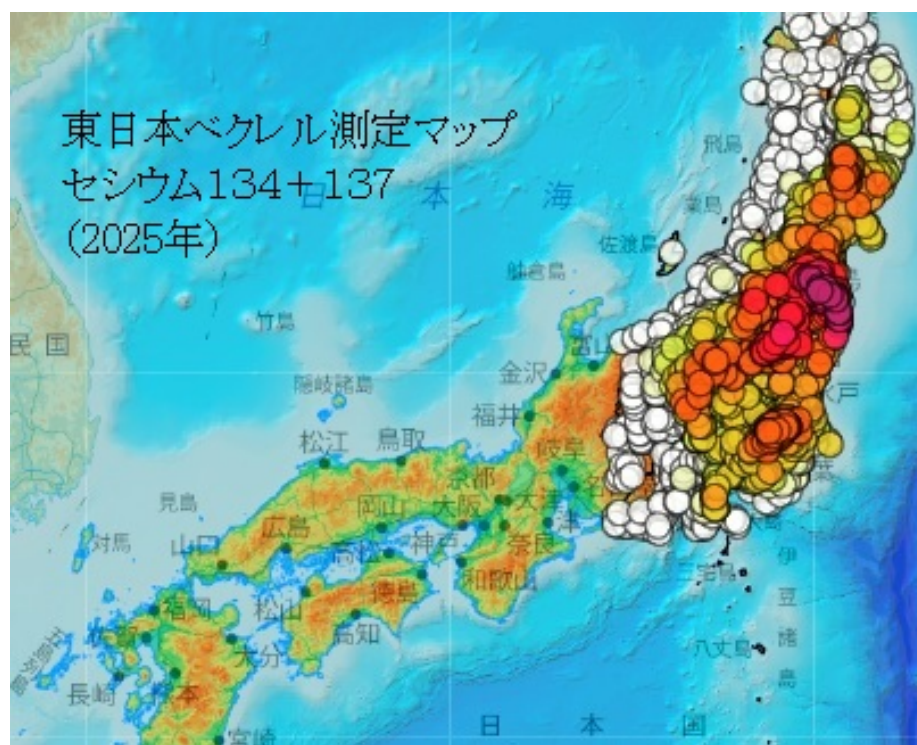
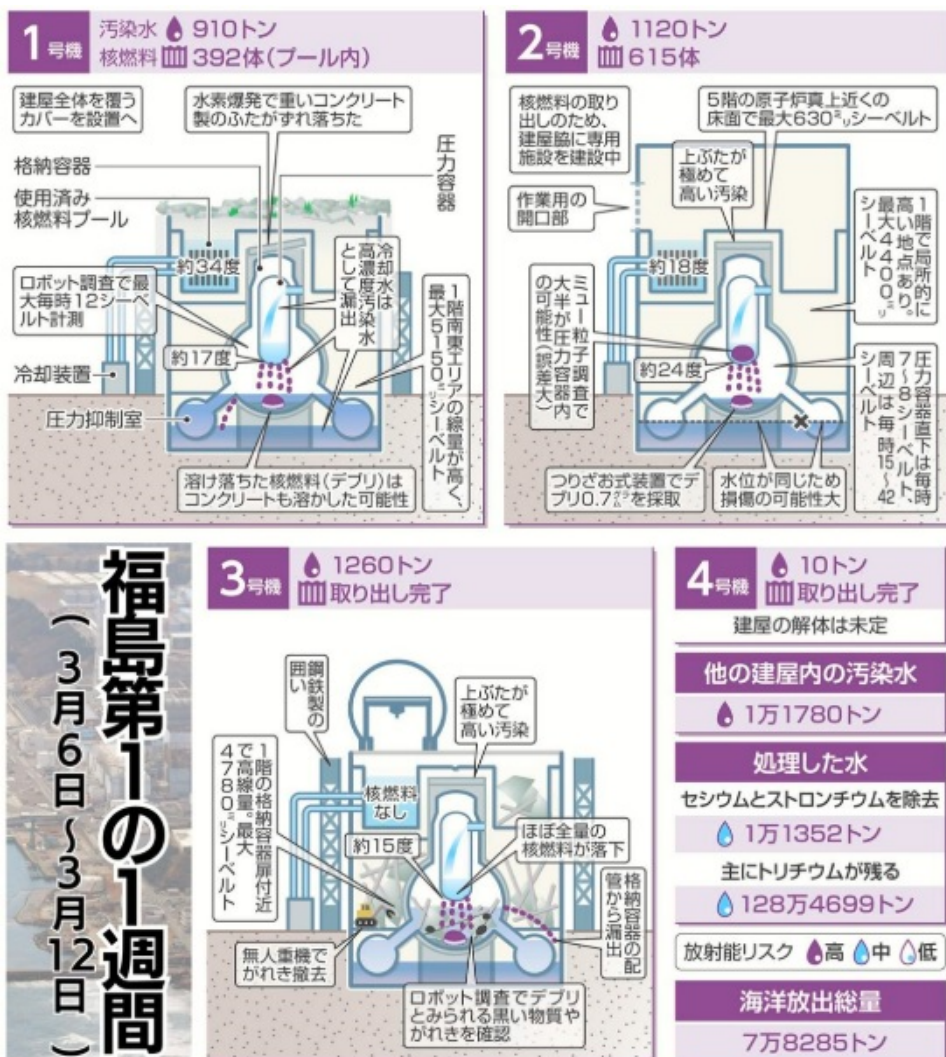
これらについて、より分かり易く説明願います。

あるいは、より分かり易い資料があれば教えてください。

(3) 福島の山野の放射性物質
事故で放出された放射性物質(Cs-137)は広島原爆の 168 発分で 7 ～ 8 割方は海に拡散されたと推測されています。現在の福島県内の山野にはどれだけの放射性物質が残っていると想定していますか？

(4) 近隣県の現在の放射性物質濃度

図は「みんなのデータサイト」で表示



される現在の濃度分布です。
東電の皆さんはどう受けとめられますか？

質問 1 - 4 放射性物質は拡散してはいけない

～行き場が無い使用済み核燃料～

前回に続き六ヶ所再処理施設及びリサイクル燃料貯蔵について質問します。

(1) 30 年前に計画され 27 回も稼働延長している六ヶ所再処理施設の稼働に「最大限協力」と回答されました。30 年遅れ 27 回稼働延期する施設が稼働出来ると考える根拠を回答願います。

稼働実績が無い「国内唯一の化学プラント」が稼働できると考える根拠をお答え願います。

(2) 六ヶ所再処理施設のアクティブ試験で膨大な放射性物質を排出しました。前回に「施設周辺で受ける放射線の量は年間約 0.022 m Sv と回答されました。その算出根拠を提示願います。一方、高木仁三郎「核燃料サイクル批判」によれば、同じく年間 800 トンの処理で「クリプトン-85 の放出量は、33 京ベクレル (3.3×10^{17} 乗ベクレル) で、地球の大気のクリプトン汚染が増加するばかりではないですか？ 稼働を摸索している今の再処理施設は、クリプトン処理は可能ですか？トリチウム処理は可能ですか？ また、液体の放射能放出量は図の様にぼう大で、トリチウム、ヨウ素以外のベータ線核種 7000 億ベクレル、アルファ線核種 98 億ベクレル、岸から 3 km 沖合いの海に放出する計画とされていました。それでも「小さい」と考える根拠を提示願います。

(3) にも拘らず、今後も使用済み核燃料をむつ中間貯蔵施設に輸送・搬入する計画 (25 年 2 基、26 年 4 基、27 年 5 基) でかつそれらも六ヶ所再処理工場に搬出する計画と回答されました。動くかどうか分からない六ヶ所再処理を口実に 50 年しか預けられないむつ中間貯蔵施設に輸送することは企業倫理に反するのではないですか？ 今後の輸送を断念するべきではありませんか？

以上

表Ⅳ-4 六ヶ所再処理工場からの放出放射能 (液体)
(単位は億ベクレル/年)

ベータ放射体	計7000	“一般人の年摂取限度”の倍数
コ バ ル ト - 60	29	12万倍
ストロンチウム - 90	340	1200万
イットリウム - 90	340	11万
ル テ ニ ウ ム - 106	1700	430万
ロ ジ ウ ム - 106	1700	2.8万
セ シ ウ ム - 134	240	48万
セ シ ウ ム - 137	480	66万
バ リ ウ ム - 137m	460	—
セ リ ウ ム - 144	150	140万
プラセオジウム - 144	150	—
ユウロピウム - 154	62	44万
プルトニウム - 241	1200	5.5億
アルファ放射体	計98	
プルトニウム 計	45	10億倍
アメリシウム 計	13	3億
キュリウム 計	37	4.6億